

1	表題名(ふりがな)	金名鉄道(きんめいてつどう)の廃線		
2	資料名(ふりがな)	北陸鉄道金名線(ほくりくてつどうきんめいせん)の廃線		
3	作成者(所属)	小阪大(白山市文化財保護課)		
4	内容分類	観光・交通		
5	内容細目	交通史		
6	実施年度	2019年11月23日		
7	地域・場所	石川県白山市鶴来地区、鳥越地区		
8	検索語(キーワード)	金名鉄道、金名線、小堀定信		
9	内容	<p>かつて白山市鶴来と白山麓の白山下(白山市河原山町)18.8kmを結んだ軌道幅1067mm)の鉄道。大正14年(1925)12月25日に鶴来出身の小堀定信(1888~1964)によって金名鉄道株式会社が設立された。金名鉄道の会社名の由来は、金沢と名古屋を白山麓を經由して4時間で結ぼうと計画された事による。大正15年2月1日に白山下から加賀広瀬13.8kmが開業し、昭和2年12月28日までに残りの、加賀広瀬から鶴来間5kmが開業した。当時、白山麓では手取川沿いの水力による発電所建設工事が行われ、鉄道開業の背景には、電源地開発のための資金援助を電力会社から得られたことによる。昭和4年には途中、神社前から鶴来町間2kmが金沢電気軌道に譲渡され、電化された(金沢白菊町から神社前の直通電車開業、流600V)。昭和18年に、戦時統合により北陸鉄道株式会社が設立され統合された。以後加賀一の宮から白山下間は金名鉄道と称した。昭和24年12月6日、加賀一の宮から白山下間は電化された。昭和34年沿線に北陸鉄道が経営する手取遊園が開業するが、昭和39年に廃園となる。昭和45年4月1日より、モータリゼーションの普及により昼間はバス代行運転となる。昭和59年12月には、途中中島鉄橋の崩壊が指摘され、電車運行を停止。同62年4月に廃線となった。当初の加賀一の宮から鶴来は存続したが、2009年11月1日をもって廃線となった。現在廃線跡は、手取白山キャニオンロードとして自転車専用道として整備された。加賀一の宮駅は 鉄道遺産として保存され現在観光</p>		
10	特色	20世紀前葉から計画された壮大な鉄道計画で、山間地の電源開発と連動して事業が進められた事に特色がある。遺構は、自転車道路として活用され、往時を復元することが可能である。		
11	提示種類	画像(静止画JPEG、動画QT)		
12	関連資料			
13	利用分野	デジタルアーカイブ、鉄道記憶遺産		

14	ファクトデータ			
15	プロセス			
16	結果			
17	記録媒体			
18	権利者(連絡先)	白山市文化財保護課		
19	協力者(連絡先)			
20	許諾情報			
21	利用注意			
22	登録日	2019年11月23日		